

報 告

日本産トガリヒメバチ亜科（ハチ目、ヒメバチ科）6種の新分布記録

New Distribution Records of Six Species of Japanese Cryptinae
(Hymenoptera, Ichneumonidae)渡辺恭平¹⁾Kyohei WATANABE¹⁾**Key words:** Aptesini, Cryptini, fauna, new record, parasitoid wasps

トガリヒメバチ亜科 *Cryptinae* Kirby, 1837 はヒメバチ科の中では2番目に大きな亜科で、日本からは62属148種が報告されている (Watanabe, 2020)。チョウ目やコウチュウ目など、様々な昆虫に寄生するほか、クモ類にも寄生する分類群もあり、生態的に多様な一群である。また、中には農林業害虫の天敵となる種も含まれるなど、総合的病害虫管理等の観点からも重要な分類群である。Watanabe (2019, 2020) は知見が断片的な日本産の本亜科について分類学的検討を加えるとともに、多くの分布記録を報告したが、依然として国内のファウナの解明度は低いままである。

筆者は現在も日本各地から収集した本亜科の標本の整理を進めているが、その過程で6種において新しい分布記録がいくつか見いだされたので、以下に目録形式で報告する。

本報告で用いた標本はすべて神奈川県立生命の星・地球博物館に収蔵されている。標本は Nikon SMZ800 実体顕微鏡により観察し、同定した。図に用いた画像は OLYMPUS TG-4 デジタルカメラを顕微鏡の接眼レンズに近接させて撮影した。画像の編集は Adobe Photoshop® CC により行った。各標本のデータは KPM-NK で始まる神奈川県立生命の星・地球博物館の資料番号、個体数（報告

する個体はすべてメスのため F と表記)、採集地名、採集年月日（月はローマ数字で表記）、採集者名で示した。また、採集地名と採集者名についてはラベルに準じてローマ字で表記した。

目 録

トガリヒメバチ亜科

Subfamily *Cryptinae* Kirby, 1837Tribe *Aptesini* Smith & Shenefelt, 1955

テラニシキモントガリヒメバチ

Javra teranishii (Uchida, 1952)

標本. JAPAN: KPM-NK 81397, F, Hokkaido, Horokanai Town, Moshiri, 16. VII. 2012, M. Ito leg.

分布. 日本（北海道、本州）。

備考. 本稿での記録は本種の北海道初記録である。

マルヤマコガタフトトガリヒメバチ

Schenkia sylvatica Townes, Momoi & Townes, 1965

標本. JAPAN: KPM-NK 81398, F, Toyama Pref., Toyama City, Arimine, Kamedani, 14–21. VII. 2009, M. Watanabe leg. (Malaise trap); KPM-NK 81399, F, Toyama Pref., Toyama City, Arimine, Inonedani, 11–16. VIII. 2009, M. Watanabe leg. (Malaise trap); KPM-NK 81400, F, Toyama Pref., Toyama City, Arimine, Juroudani, 1–8. IX. 2009, M. Watanabe leg.

¹⁾ 神奈川県立生命の星・地球博物館
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History,
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan
watanabe-k@nh.kanagawa-museum.jp

(Malaise trap).

分布. 日本 (国後島、北海道、本州).

備考. 本種は原記載 (Uchida, 1936) で用いられた北海道札幌市円山と国後島で得られた2個体のメスしか知られていなかった。本稿での記録は本種の本州初記録であるとともに、原記載以降初めての追加記録となる。なお、本種は *Microcryptus maruyamensis* Uchida, 1936 として記載されたが、種小名が先行して別のタクソンで使用されていたため Townes *et al.* (1965) により置換名が提唱された。

Tribe Cryptini Kirby, 1837

ハラアカシロテントガリヒメバチ (新称)

Agrothereutes abbreviatus (Fabricius, 1794)

(Figs 1 A, B)

標本. JAPAN: KPM-NK 81401, F, Hokkaido, Otaru City, Zenibako, Shinkawa-kako, 11. VII. 2013, A.

Yamamoto leg.

分布. 日本 (国後島、北海道) ; 全北区.

備考. 本種は全北区に広く分布し、他種と比べて大きな種内変異をもち、その影響で異名も多い。Horstmann (1993) は本種のメスを4つの型に分類したが、上記北海道産の標本はこのうちの "Forma *abbreviator*" の特徴に合致した。この型は中体節がほとんど、あるいは完全に黒色である点と、前翅の長さが後脚脛節の長さの 0.5–0.8 倍であり、短翅型とならない点で定義される。本種は日本産の同属他種とは以下の形質状態により容易に区別できる：触角の基部方は白帯の基部方に赤褐色部をもつ：後体節第 1–3 背板は赤褐色；脚は後脚脛節の基部と後脚脛節の基部を除き赤褐色 (図 1 A, B)。

本種は Kasparyan *et al.* (2012) で国後島の記録が扱われているものの、小西・松本 (2020) の目録には含まれておらず、和名もない。本報では本種を北海道から初めて記録するとともに標準和名としてハラアカシロテントガリヒメバチを

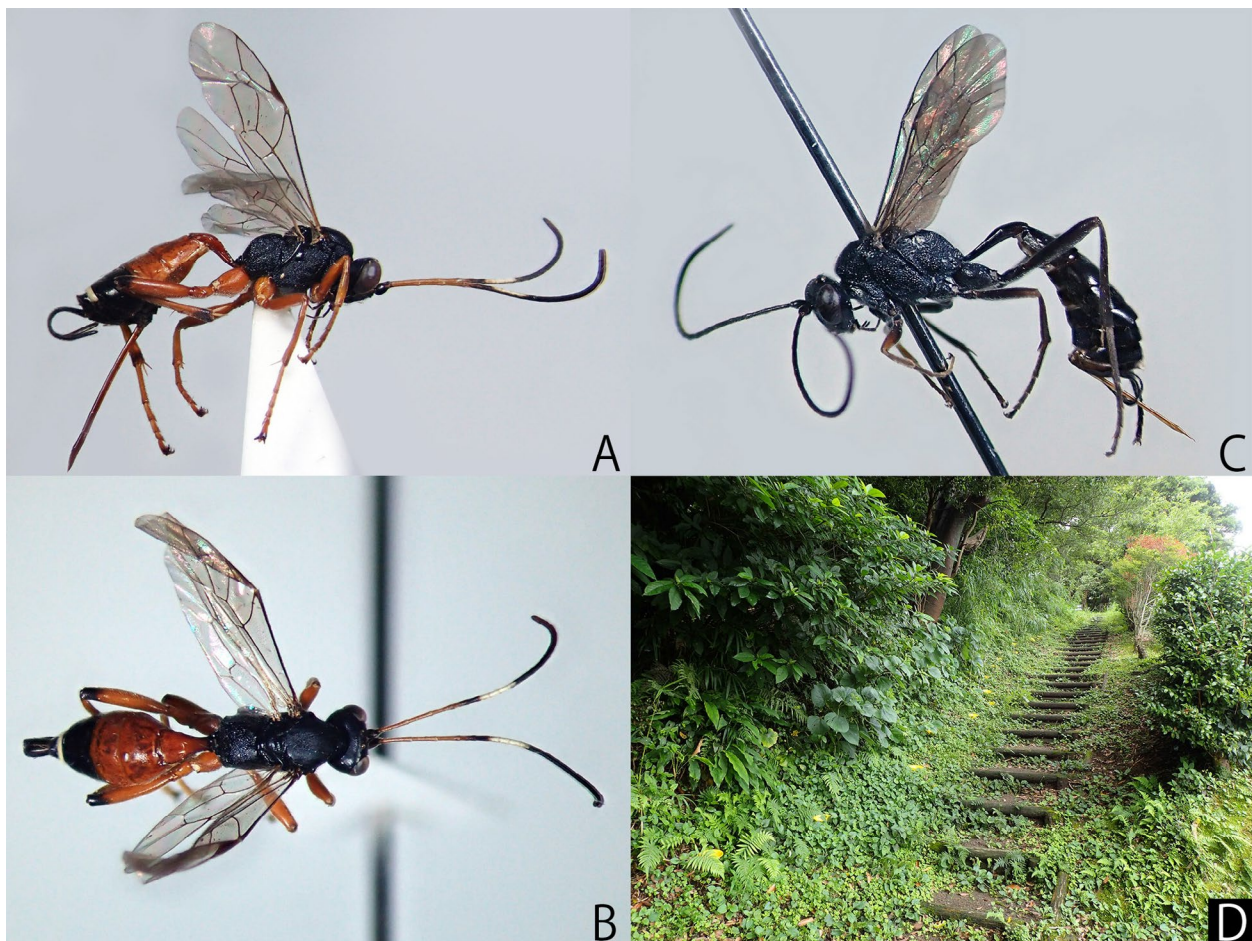


図 1. A, B: ハラアカシロテントガリヒメバチ (新称) *Agrothereutes abbreviatus* (Fabricius, 1794) のメス (KPM-NK 81401); C: トウキョウツヤトガリヒメバチ *Trychosis tokioensis* (Uchida, 1930) のメス (KPM-NK 81408); D: トウキョウツヤトガリヒメバチの生息環境. A, C: 側方から見た全形; B: 背方から見た全形.

Fig. 1. A, B: *Agrothereutes abbreviatus* (Fabricius, 1794), female (KPM-NK 81401); C: *Trychosis tokioensis* (Uchida, 1930), female (KPM-NK 81408); D: habitat of *T. tokioensis*. A, C: lateral habitus; B: dorsal habitus.

提唱する。

なお、本種はユーラシア大陸では比較的普通に得られるヒメバチである（筆者が各国の博物館の収蔵庫で見た標本数より判断）が、日本国内での採集例は極めて少なく、稀な種である。この違いが地史的な理由によるものであるか、寄主をめぐって競合する寄生蜂が日本国内に豊富に生息しているためによるかは、現時点では不明である。

オウシュウトガリヒメバチ

Cryptus spiralis (Fourcroy, 1785)

標本. JAPAN: KPM-NK 81402, F, Hokkaido, Rishiri Is., Rishiri Town, Oshidomari-sakae, 19. VIII. 2019, T. Amano leg.; KPM-NK 81403, F, Hokkaido, Rishiri Is., Rishiri Town, Kutsugata, 21. VIII. 2019, T. Amano leg.

分布. 日本（利尻島、北海道、本州）；旧北区。

備考. 本種は全北区に広く分布し、国内では北海道と本州から記録がある。本稿での記録は本種の利尻島初記録である。

ミナミコクロオナガトガリヒメバチ

Picardiella rufa (Uchida, 1932)

標本. JAPAN: KPM-NK 81404, F, Okinawa Pref., Iriomotejima Is., Taketomi Town, Otomi-rindo, 1. VI. 2006, K. Watanabe leg.; KPM-NK 81405, F, Okinawa Pref., Iriomotejima Is., Taketomi Town, Uehara, 19. VII. 2007, H. Kawamoto leg.

分布. 日本（奄美大島、沖縄本島、石垣島、西表島）；台湾。

備考. 本稿での記録は本種の西表島初記録である。

トウキョウツヤトガリヒメバチ

Trychosis tokioensis (Uchida, 1930)

(Figs 1 C, D)

標本. JAPAN: KPM-NK 81406, F, Toyama Pref., Toyama City, Arimine, Kamedani, 14–21. VII. 2009, M. Watanabe leg. (Malaise trap); KPM-NK 81407, 81408, 2 F, Kagoshima Pref., Kimotsuki Town, Minamikata, Kanaedake, 18–20. VII. 2019, K. Watanabe & K. Matsumoto leg. (YPT).

分布. 日本（本州、九州）。

備考. 本種は Uchida (1930) により東京で得られた 3 個体のメスに基づき記載されたが、その後の記録はなかった。本稿での記録は本種の九州初記録であるとともに、原記載以降初めての追加記録となる。九州で得られた個体（図 1 C）は低

木やササ類が茂る森林の林縁（図 1 D）に沿って設置したイエローパントラップで得られたものである。本種のタイプは 4 月に得られているが、今回確認した追加個体はいずれも 7 月に得られており、体に顕著な破損は認められなかった。従って、本種の成虫は年二回出現する可能性がある。

末筆ではあるが、貴重な標本をご提供いただいた天野 匠、伊藤誠人、能瀬晴菜、清水 晃、山本亜生、山内健生の各氏に感謝申し上げます。また、本研究の一部は科研費（17K15185）の助成を受けて行われたものである。

引用文献

- Horstmann, K., 1993. Revision der brachypteren Weibchen der westpaläarktischen Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae). *Entomofauna*, 14(7): 85–148
- Kasparyan, D. R., A. Hull, A. Tereshkin, A. I. Humala & M. I. Proshchalykin, 2012. 47. Fam. Ichneumonidae. In: Lelej, A. S. (ed.), *Annotated Catalogue of the Insects of Russian Far East. Vol. I. Hymenoptera*. Dal'nauka, Vladivostok, pp. 210–299. (In Russian)
- 小西和彦・松本吏樹郎, 2020. Family Ichneumonidae ヒメバチ科. 日本昆虫学会日本昆虫目録編集委員会編, 日本昆虫目録 第9巻 膜翅目 (第2部細腰亜目寄生蜂類). pp. 358–578. 権歌書房, 福岡.
- Townes, H., S. Momoi & M. Townes, 1965. A catalogue and reclassification of the eastern Palearctic Ichneumonidae. *Memoirs of the American Entomological Institute*, 5: 1–661.
- Uchida, T., 1930. Fuenfter Beitrag zur Ichneumoniden-Fauna Japans. *Journal of the Faculty of Agriculture, Hokkaido Imperial University*, 25: 299–347.
- Uchida, T., 1936. Erster Nachtrag zur Ichneumonidenfauna der Kurilen. (Subfam. Cryptinae und Pimplinae). *Insecta matsumurana*, 11: 39–55.
- Watanabe K., 2019. Taxonomic and zoogeographical notes of Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with description of five new species. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (48): 81–113.
- Watanabe K., 2020. Taxonomic and zoogeographic notes on Japanese Cryptinae (Hymenoptera, Ichneumonidae), with descriptions of 12 new species. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, (49): 29–66.